

武蔵野の雑木林に向けられた 井下清のまなざし —推薦樹種と言説を中心に—

小田切 萌¹・齋藤 潮²

¹非会員 工学修士 小野寺康都市設計事務所
(〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-8-10, E-mail:odagiri@onodera.co.jp)

²正会員 工博 東京工業大学大学院社会理工学研究科
(〒168-0082 東京都目黒区大岡山2-12-1 W8-501, E-mail:usaito@soc.titech.ac.jp)

武蔵野において雑木林が人々の心を惹きつけてきた要因に、自然主義文学における武蔵野の発見がある。本研究は、長く東京の公共造園を担い、自然主義文学に傾倒した井下清が、武蔵野の雑木林をどのように捉え、それが彼の造園空間についての思索にどのように反映されているかを明らかにすることを目的とする。考察の結果、①井下の武蔵野の雑木林へのまなざしは、文学のイメージにとどまっていたものから、自己の経験により、雑木林の実際の姿をも捉えていくものへと広がった事 ②造園の思索に於いて、庭園においては雑木林の樹種の積極的な選定が見られたが、公園・街路の公共空間においては、郷土風景樹という彼の理念にもとづく範囲でのみ雑木林の樹種を選定する姿勢が見られた事、の2点を明らかにした。

キーワード: 井下清, 武蔵野, 雑木林, まなざし, 風景観.

1. はじめに

(1) 背景と目的

古くからその姿を更新してきた武蔵野は、自然主義文学における武蔵野の発見により、「雑木林の武蔵野」として人々の心を惹き付けてきた¹⁾。武蔵野の雑木林は、明治時代初期に自然主義文壇によって描かれることで、単なる農用林という存在から、風致林として観賞の対象としても捉えられるようになり、庭園や公共造園へも影響を与えたとされる²⁾。自然主義文学に傾倒し、庭園・公共造園に関わっていた人物として井下清が挙げられる³⁾。長く東京市の公園課長を勤め、造園家であった井下は、東京の緑地行政の基礎を築いた。

以上より本稿は、長く東京の公共造園を担い、かつ武蔵野に造詣が深いとされる井下清が、武蔵野の雑木林をどのように捉え、それが彼の造園空間についての思索に、どのように反映されているかを明らかにする事を目的とする。

(2) 既往研究と本研究の位置づけ

造園空間と武蔵野の関係性について述べている研究に、山根²⁾、岡島⁴⁾のものが挙げられる。山根²⁾は、「雑木林の武蔵野」のイメージの影響として、庭園における雑木林を意識した作庭や、公園や風致地区における雑木林

の保護を指摘している。岡島⁴⁾は、上原敬二の庭木の樹種評価の形成に雑木林の武蔵野の影響を受けた作庭や、自己の経験が影響を与えた事を指摘している。これに対し本稿は、私的な庭園に留まらず、公共造園を含めて、雑木林の武蔵野がどのように受け入れられたかを明らかにするものである。

(3) 研究の方法

調査は、井下の言説の分析を中心に行う。対象とする文献については、国立国会図書館・東京グリーンアーカイブスにおいて確認できる井下の論考が掲載された雑誌と彼の著作である202件全てに目を通し、武蔵野に関する記述が読み取れるもの12件と、井下の公園・街路樹・庭園において推薦される樹種について述べてある言説24件を分析対象として取り上げる。研究の構成として、まず2章において自然主義文学によるまなざしを中心に、井下の捉えていた武蔵野についてまとめる。3章において、井下が造園空間において利用を考えている樹種についてまとめる。そして、4章において2,3章を踏まえ、井下の武蔵野の捉え方と造園空間において利用を考えている樹種の関係について明らかにし、5章において全体をまとめる。6章においては補論として、樹種への着目のみで明らかにすることのできない部分について考察する。

2. 井下の武蔵野に対する意識の形成

2章では、井下の言説において、武蔵野に関する記述が読み取れるものから、井下の武蔵野の捉え方を明らかにする。分析対象となる言説を【表1】に示す。

表1 武蔵野との関係が読み取れる井下の言説

言説番号	出版年月	タイトル	雑誌・著書名	雑木林の記述
A-1	1918.07	武蔵野の花	武蔵野1(1)	○
A-2	1920.05	老樹名木には相当の保護をせねばならぬ	武蔵野3(2)	×
A-3	1921.12	武蔵野に生ふる木	武蔵野4(4)	○
A-4	1926.1	心境としての武蔵野	婦人之友20(10)	×
A-5	1934.09	武蔵野ノ雑木林	公園研究(2)	○
A-6	1934.01	都市緑地事業	都市問題19(4)	○
A-7	1935.07	武蔵野の雑木林	武蔵野22(7)	○
A-8	1949.04	巻頭言	武蔵野31(1)	○
A-9	1943	近山近海	緑地生活	○
A-10	1958.07	大都市近郊における緑地問題	都市問題49(7)	○
A-11	1960.1	武蔵野と樹	武蔵野41(1)	○
A-12	1970.01	武蔵野の雑木林をつくる	武蔵野49(1/2)	○
				10/12

(1) 井下の武蔵野へのまなざしの概観

井下の言説を概観すると、蘆花や独歩など、自然主義文学について直接述べている記述(A-5)や、自然主義文学の特徴を読み取る事ができる記述(A-1)が見られる事から、井下の武蔵野の捉え方において、自然主義文学のまなざしがある事がわかる。また、自然主義文学のまなざしにとどまらず、武蔵野の上古からの歴史的な背景をふまえて、武蔵野を捉えようとするまなざし(A-4)や、自らの専門である造園学を通して武蔵野を捉えようとするまなざし(A-5)や、東京の郊外の拡大や発展の動向が井下の武蔵野の捉え方に影響を与えていると見られる様子(A-9)などが伺える。以上から井下は、自然主義文学のまなざしだけでなく、複数のまなざしによって武蔵野を捉えていたことが分かる。

(2) 井下の捉えていた武蔵野の要素

井下は当時の武蔵野の様子を、植生・地形要素・水系・人口建造物など、幅広く描写している。その中でも雑木林について特に多く述べており、その内容も具体的である。内容としては、雑木林の維持管理のしくみ・自然更新のプロセス・遷移の様子などの動態的な側面や、雑木

林が野に断続的にある様子・雑木林の樹種についてなどを挙げ、雑木林の実的な部分についてと、その構成の特徴や美しさについて述べている。

中でも井下は、雑木林の樹種への関心が高い。井下の武蔵野に関しての言説12件から、井下が武蔵野の樹種として言説の中で挙げているものを抽出したものが【表2】である。樹種について言及しているものは12件中7件である。初期のものにおいては挙げられる樹種が少なく、1934年以降その樹種が増えている傾向がある。

表2 井下の言説にみる武蔵野の雑木林の樹種

言説番号	雑木林の樹種明記	武蔵野の雑木林の樹種	樹種数
A-1	○	クリ・ナラ・クヌギ・エゴノキ	3
A-2	×		
A-3	○	ヤマボウシ	1
A-4	×		
A-5	○	ナラ・クヌギ・クリ・ソロ・ニレ・エゴノキ・ガマズミ・ヤマナバリ・ハラクハ・ヤマボウシ・ヤマコウバシ・フナ・ウメモドキ・ウシコロシ	14
A-6	○	ネムノキ・イヌザクラ・ヤマザクラ・ケヤキ・カラクワ・ゴンズイ・コブシ・ガマズミ・ウシコロシ・ニシキギ・コゴメウツギ・ツツジ・ヤブムラサキ・マユミ	14
A-7	○	ナラ・クヌギ・ケヤキ・ソロ・ハンノキ・フナ・クリ・ムク・ヤマザクラ・ネムノキ・エゴノキ・マユミ・ヤマボウシ・ガマズミ・ヌルデ・ゴンズイ・サワフタギ・ネジキ・ヤブムラサキ	22
A-8	×		
A-9	×		
A-10	○	ナラ・クヌギ・ソロ	3
A-11	×		
A-12	○	アカマツ・ナラ・クヌギ・ケヤキ・ムクノキ・エノキ・ガマズミ・エゴノキ・ソロ・イヌザクラ・ネムノキ・ゴンズイ・マユミ	13

(3) 自然主義文学のまなざしからみる井下の武蔵野

井下が自然主義文学の影響として蘆花に傾倒していた事をふまえ、井下が捉えている雑木林の樹種と、自然主義文学で取り扱われる樹種と比較する。言説A-5における“武蔵野の雑木林が文学に表はれたものについて記憶に残るものを二、三上げます。國木田独歩氏については先にも申し述べました。その他、徳富蘆花氏、早稲田の白石氏が明治四十二年頃中央公論に書いたもの等を代表的なものとして記憶に残して居ます。”という記述をもとに、独歩・蘆花・白石の小説⁵⁶⁾⁷⁾における樹種表記を抽出するとナラ・クリ・クヌギ・エゴノキ・アカマツが得られた。この5種を、文学における雑木林の樹種とし、井下の捉える雑木林の樹種との関係性をみると、【表2】の太字部分のような、部分的な重なりが見られ、特に1918年の言説においては、総ての樹種が文学において登場する樹種と共通している事がわかる。ところが、1921年の言説で、文学の雑木林では描かれなかったヤマボウシが挙げられている事、以降、列挙される樹種数に大きな増加が見られる事から、井下の武蔵野を捉えるまなざしを把握する上で、1921年の言説を更に分析する。

(4) ヤマボウシの発見によるまなざしの変化

1921年の『武蔵野に生ふる木』というタイトルの言説A-3は、井下がその年の夏に小金井を訪れた際の出来事について語られている。井下は、公務で小金井を訪れていた際に通りがかった雑木林のうちに、ヤマボウシが生えている事に気づいた事に対して“がっかりした”と述べている。そして、この経験から井下は、“至って平凡であつて特に注目する様な産物もなければ珍木もない”と思っていた武蔵野の雑木林を、“これからは大づかみに「雑木林」と云う風な見方をせず一本一本研究して見たいと思ふ”と述べ捉え方を変化させている。また、同言説を読んでいくと、井下は、その言説の以前から、ヤマボウシに関心を寄せていた事がわかる。ヤマボウシは、1910年に日本がアメリカへ櫻を贈った返礼として、アメリカから贈られたハナミズキと似た在来の種であった。これをふまえて表2においてハナミズキに注目して見てみると、1921年にヤマボウシが出た以降も、井下が武蔵野の雑木林の樹種として言説A-5、A-7でもヤマボウシを捉えている様子が見られる。

(5) 小結

井下の武蔵野の捉え方として、自然主義文学によるまなざしがあった事、また、そのまなざしにとどまらず、複数のまなざしによって武蔵野を捉えていたことを明らかにした。

また、具体的な樹種から武蔵野の捉え方をみると、1921年以前、井下は雑木林の樹種を文学のイメージからしか捉える事ができていなかったが、後年は武蔵野の雑木林をバリエーション豊かに捉えていくようになる。よって、1921年のヤマボウシの体験は、井下にとって雑木林を、文学のイメージとして捉えるものにとどまらず、自身が実際に武蔵野を見ることでその姿を捉えていこうとするまなざしへ変化させるものであったことがわかる。

3. 井下の造園空間の思考における武蔵野

3章では井下の推薦樹種の選定がどのように行われていたかを明らかにする。推薦樹種とは、井下の言説中に、造園空間にける利用を推奨している記述が確認できる樹種を指す。井下の言説全204件のうち、推薦樹種についての記述が見られるものは24件である。推薦樹種の対象となる造園空間は庭園・公園・街路の3つの空間に分けることができる。それぞれの言説について、庭園をG、公園をP、街路をSとし、時系列にナンバリングした上で、言説で述べられている推薦樹種の内容を表3に整理した。

4. 井下のまなざしと推薦樹種の関係

4章では、2章において明らかにした井下の武蔵野の捉え方及びその変化と、3章において明らかにした井下の推薦樹種から、両者の関係を考察する。また、本稿においては、井下が自らの言説の中で武蔵野の雑木林として描写している樹種を、武蔵野の雑木林の樹種と定義する。

(1) 推薦樹種と井下の捉えた武蔵野の雑木林の樹種

庭園の推薦樹種において雑木林の樹種が出て来るのは、【表3】のG-1、G-2そしてG-7~G-11と続く。それぞれの樹種の記述の傾向として、G-1、G-2は、雑木林の樹種が挙がってはいるものの、それらを武蔵野の雑木林として意図しているような記述はなく、G-1は雑木林の樹種といっても、常緑広葉灌木のイヌツゲに留まり、G-2においては、言説の中で挙げられる大量の樹種のなかで、散在して武蔵野の雑木林の樹種が挙げられるに留まるため、武蔵野の雑木林を意識してそれらの樹種を挙げている可能性が低い。一方、G-7以降の言説においては、武蔵野の雑木林の樹種を、G-9“雑木林内に限る思いがけない樹木”と称したり、武蔵野の雑木林の樹種がまとめて落葉樹や雑木として挙げられたりすることから、雑木林の樹種と意図して樹種を列挙している様子が伺える。

公園の推薦樹種においても武蔵野の雑木林の樹種の影響を見てみると、6つの言説のうち5つで武蔵野の雑木林の樹種がみられるが、武蔵野の雑木林の樹種と意識した記述は、P-4においてケヤキが“雑木林の内に自然萌芽したもの”と述べられているにすぎない。

街路においても、7つの言説のうち6つで武蔵野の雑木林の樹種を確認する事ができるが、S-3においてケヤキが“武蔵野の郷土色を表すもの”と述べられているにすぎない。

以上のように、推薦樹種において武蔵野の雑木林の樹種は多くあげられてはいるが、そのうち、武蔵野の雑木林を意識して樹種を挙げているものは、G-7~G-11と、P-4のケヤキのみであり、その他については、雑木林の樹種と意図して述べているか半然としない。

(2) 庭園の樹種選定における1921年のまなざしの変化の影響

庭園において、雑木林の樹種が出てきながらもその意図が見られないG-1、G-2と、雑木林の樹種である意図が読み取れるG-7~G-11は、時系列で見ると1921年のヤマボウシの発見という経験の前と後である

事がわかる。ここから、庭園の樹種選定において、1921年以降井下が雑木林の樹種を推薦している姿勢がわかる。ここから、1921年のヤマボウシの発見によって、井下がそれ以降、雑木林の樹種を造園空間における取り入れを推薦するようになったという事が考察できる。この背景として、庭園を思想趣味の表現の場であると捉えていた井下の理念があり⁸⁾、個人の趣味性の範囲で雑木林の樹種を風情として取り入れる事を認めていたと考える事ができる。

(3) 自然主義文学における樹種の影響

樹種選定において、自然主義文学における文学の樹種があがっているものは、庭園におけるG-7~G-9にとどまっている。ここから井下は、庭園においては武蔵野の雑木林の樹種を取り入れようとしたが、公園・街路においてはそのような姿勢は見られなかったという事がわかる。

(4) 郷土樹木という概念

雑木林の樹種ではあるが、その意図の判然としない公園・街路空間における雑木林の樹種の記述の傾向として、武蔵野の郷土を表す樹種と述べられる傾向がある。ここから、郷土の風景を表す樹という井下の樹木に関する概念として「郷土樹木」が挙げられる。井下は郷土の風景形成する樹木を、単に郷土に多く生えている特徴的なものとして、遷移の中で優勢な自生のものを真の郷土樹木として指している⁹⁾。この郷土樹木と、公園・街路において挙げられている雑木林の樹種を比較してみるとそれらの多くが重なっている。この選定の背景として、公共造園においては維持管理のしやすさや障害から強いことを条件としていた井下の理念があると考えられる。

5. まとめ

本稿では、以下の2点を明らかにした。

井下は武蔵野に対して、自然主義文学のまなざしと、武蔵野の雑木林の実際を自ら詳細に捉えていこうとするまなざしがある。井下は初期の言説に於いては、自らの傾倒していた文学のイメージによってしか、武蔵野の雑木林の樹種を捉える事ができていなかった。しかし、1921年のヤマボウシの発見によって、実際の武蔵野の雑木林を捉えていくまなざしを獲得した。

井下の推薦樹種において、武蔵野の雑木林の樹種は庭園・公園・街路はそれぞれ出て来るが、雑木林の樹種であると意図を以て選定されていることがと明らかなものは、庭園においてのみ確認でき、公園と街路においては

確認できなかった。また、庭園においても、雑木林の樹種であるという意図のもと選定しているのは、自身の1921年のヤマボウシの経験によって、雑木林の樹種を積極的に見るようになった以降のみである。

この推薦樹種と井下のまなざしの関係性の背景として、井下の造園空間における理念が影響している事が考えられる。庭園を思想趣味の表現であると捉えていた井下は、庭園空間においては、個人の趣味性の範囲で雑木林の風情として武蔵野の雑木林の樹種を取り入れて楽しむ事は受け入れるべき事と考えていた。しかし、自分の職域である公園と街路においては、維持管理などの条件から、武蔵野の雑木林の樹種を、多く取り入れる事はなく、あくまで維持管理のしやすい遷移の中で優勢な自生の郷土風景樹として取り入れていたことが考えられる。

6. 補論

(1) 今後の課題

本稿では井下の武蔵野の捉え方について、自然主義文学の影響による文学のまなざしを中心に分析を行い、2章で挙げたその他のまなざしである、歴史的背景をふまえて武蔵野を捉えようとするまなざしなどの視点については、造園空間との関連性を詳しく見ていく事はできなかった。その他のまなざしについては今後の課題としたい。

(2) 雑木林の保存と造成について

井下の武蔵野の雑木林の捉え方の造園空間への反映を見るなかで、樹種で見ることにはできないが重要なものとして、雑木林の保存に関する言説であるA-6、A-7、A-10と、雑木林の新たな造成に関する言説である造成に関する言説であるA-12がある。

井下は、雑木林の保存について、言説A-7において、維持管理方法や目指す雑木林の姿などの方向性を検討し、雑木林を都市緑地として残していく姿勢をとりつつも、言説A-12において、“東京人の深い愛着を持つ武蔵野の雑木林をどう求めていくか”、とその方針について決定しかねている。また、雑木林の造成については、自らの関わる事業の中で、東京の郷土風景とも言える武蔵野の雑木林を自然公園として造成する案に対して、“武蔵野の雑木林を巧みに取り合わせ健全に郷土風景とすることに違和感を感じる”と述べ、この案に憂慮しつつも、その案に対する技術的な計画を自ら提案している。

ここで改めて井下がどのように武蔵野を捉えていたか鑑みると、井下はヤマボウシの発見を通して雑木林を様々なまなざしでみていく中で、武蔵野の雑木林の良さを、雑木林が自然更新されていく動的なシステムや、雑木

林の林相，周囲との断続性などの総合的な点に感じていた。また，歴史的な推移から武蔵野を見つめていた井下にとっては，武蔵野が雑木林である事自体さえも動的な瞬間の1つであったのかもしれない。都市緑地として雑木林を保存し，公園という営造物において雑木林の樹種を取り合わせてそれを再現するという事は自分の雑木林観とは相いれないものであったと考えられる。

(2) 飯田十基との交友関係の影響について

井下が自らの職域ではない庭園における推薦樹として，初めて雑木林の樹種を列挙した 1930 年の庭園の推薦樹種についての言説 G-7 に着目する。井下は，この言説で雑木林の樹種を列挙する際に，“雑木を庭に使ふことは近頃の流行であるが”と述べている。この，ブームと指しているものとして考えられるものとして，雑木の庭の創始者と呼ばれる飯田十基などの自然風の庭園のおこりが挙げられる。1930 年の前年は，飯田十基の作品が雑誌庭園に初めて掲載された年であった。井下の業績録によると，井下と飯田は古い心の友とも言える存在であったようで，1つ，1921 年前後，甲府の昇仙峡でのエピソードがある。井下は，飯田にその時に”あんたは公園の仕事に気があるかね”と尋ね，飯田はそれに”私は日本庭園を修業してきたので，公園の方面には出しゃばりたくありません”と答え，それに井下は”それはよかった，そのつもりなら私もあんたと一生付き合おう”と言ったとある。このように，飯田と井下はお互いの領分を認め合っていた。このことから，井下が庭園においては積極的に雑木の取り入れを行っていたことに，飯田の影響を受けていた事も考えられる。

また，飯田に限らず，同時代の造園家についても調査し，井下の思索と比較する必要があるが，今後の課題とする。

参考文献

- 1) 西田正憲：自然風景へのまなざしの変遷と新たな風景視点，ランドスケープ研究 68(2)，2004
- 2) 山根ますみ：武蔵野のイメージとその変化要因についての考察，造園雑誌 53(5)，1990
- 3) 前島康彦編：『井下清先生業績録』，井下清先生記念事業委員会，1974
- 4) 岡島直方：上原敬二による庭園樹木としての雑木に対する評価の形成，ランドスケープ研究 74(5)，2005
- 5) 徳富蘆花：みみずのたはごと：福永書店，1913
- 6) 国木田独歩：武蔵野：民友社，1901
- 7) 白石実三：春陽堂書店，1938
- 8) 井下清：都市公共造園の基本精神：造園研究(18)，1936
- 9) 井下清：東京の郷土樹木：公園研究 1(1)，1934

表-2 井下の造園空間における推薦樹種の選定

■庭園における推薦樹種

G-1 1920.9 庭園2(7) 郊外住宅の外柵
ツバキ・サザンカ・クチナシ・アオキ・キリシマツツジ・スギ・ヒノキ・サワラ・イヌマキ・カヤ・ドウダンツツジ・ハトヤバラ・蔓生薔薇・ヒイラギ・テイカカツラ・カラタチ・ピラカンサス・シラカシ・サンゴジュ・ネズミモチ・オオヒイラギ・カナメモチ・ウバメガシ・**イヌツゲ**★マサキ・キツタ・サネカズラ・ムベ・**アセビ**★アスナロ・メギ

G-2 1921.4 造園植栽法―新しき庭木
シイ・ツバキ・モッコク・モクセイ・モッコク・ジンチョウゲ・ツツジ・大紫・琉球・シャクナゲ・オオバアサガオ・クロマツ・カヤ・マツ・ゴヨウマツ・カリン・**コブシ**★ハクレン・モクレン・ロウバイ・モチノキ・ホーリー・カルミヤ・ユウカリバタス・ピラカンサス・ヒマラキスギ・セドルスリバナウ・セドルスアトランチカトウヒ・プリュースブルース・ストロブス五葉松・リギダマツ・カナダツギ・西洋カタルパ・レッドラーク・スカレッドラーク・ピンラーク・スズカケノキ・ハナミズキ・ラクウショウ・シラカシ・アカガシ・ウバメガシ・イチイガシ・ハゴロモカシ・クスノキ・タブノキ・ニッケイ・シロダモ・ヤブニッケイ・テンダイウヤク・マルバニッケイ・ネズミモチ・クロガネモチ・ゲッケイジュ・トベラ・**アセビ**★グミ・ナワシログミ・シャリンバイ・アカンヤ・イヌガヤ・ネツコ・**ヤマコウバシ**★アブラチャン・**ケヤキ**★トウカエデ・ミツカエデ・エンジュ・ハクエンジュ・オニエンジュ・芽根槐・イヌエンジュ・サイカチ・カツラ・トチノキ・**ホオノキ**★ハクウンボク・ナツツバキ・**ヤマボウシ**★ポダイジュ・イイギリ・センノキ・サンザシ

G-3 1921.7 庭園3(4) 庭木の研究(一)
シイ・モッコク・ゴヨウマツ・ヒヨクヒバ・マツ・クロマツ・カヤ・ヒノキ・**アカマツ**★サワラ・モチノキ・ホーリー・リギダマツ・ヒマラキスギ・トウヒ・ノルウエースブルース・プリュースブルース・プリュースブルース・カナダツギ・ストロブス五葉松・リギダマツ・マテバシイ・アカガシ・シラカシ・イチイガシ・ハゴロモカシ・クロガネモチ・ウバメガシ・アラカシ・ソゴ・マキ・クノベ・コノテガシワ・ツギ・イヌガヤ・チョウセンマキ・ヒムロ・アスナロ・ホタルヒバ・コウヤマキ

G-4 1921.9 庭園3(9) 庭木の研究(二)
ツバキ・桃色乙女・紅乙女・白乙女・白牡丹・岩根絞・淡路島・羽衣・都島・サザンカ・モッコク・クスノキ・ヤブニッケイ・シロダモ・タブノキ・ホソバタブ・カゴノキ・ニッケイ・シロダモ・マルバニッケイ・ヤマツツバキ

G-5 1926.9 庭園8(9) 栽培を勧めたい新しい洋種の庭樹
コトニアスター・ピラカンサス・プルナスアウロセラサス・ピットスホルム・エスカロニア・アルブタスウネド・ヒマラキスギ・カナダツギ・トウヒ・リギダマツ・ストロブマツ・イタリヤストロブ・ヘキア・バーベリス・オヒョウモモ・ビバーナムスノーボール

G-6 1929.12 庭園12(1) 落葉庭木の品さため(上)
カエデ・アオギリ・キリ・トネリコバカエデ・ツツハカエデ・シカモアカエデ・スズカケノキ・トウカエデ・ミツカエデ・トキワカエデ・ハウチワカエデ・カシカエデ・テツカエデ・ハナノキ・ホソカエデ・ウリハダカエデ・メグスリノキ・フウ・トチノキ

G-7 1930.2 庭園12(2) 落葉庭木の品さため(下)
コブシ★キササゲ・ネムノキ・チャンチン・シダレヤナギ・ラクウショウ・ムクノキ★ハゼノキ・**ヌルデ**★ラクウショウ・**ホオノキ**★ポダイジュ・カツラ・ナンキンハゼ・**ケヤキ**★**ナラ**★**クスギ**★**アカシデ**★**ハンノキ**★**ブナ**★**ミズキ**★ヤマデマリ・**ゴンズイ**★**ヤマボウシ**★**カマツカ**★**マユミ**★コナラ・アキコレ・イイギリ・アカマツシワ・ハクウンボク・エンジュ・イヌエンジュ・ゲナシアカシヤ・ベニアカシヤ・サイカチ・キングサリ・シンジュ・イチョウ

G-8 1931.7 庭園13(7) 一葉の涼味
アカマツ★**アカシデ**★ヤマモミジ・**ブナ**★**ケヤキ**★**エゴノキ**★

G-9 1934.5 庭園16(5) 新傾向の庭園を語る―特に造園材料から見て―
ハトヤバラ・アカガシ・**アラカシ**★**マテバシイ**★**トベラ**★ムベ・コウヨウヅタ・**アカシデ**★**エゴノキ**★

G-10 1935.8 住宅と庭園2(8) 暑に緑蔭を想ふ
マツ・**ケヤキ**★**アカシデ**★

G-11 1936.1 庭園18(1) 冬の庭
ツバキ・サザンカ・ダイダイ・ブッシュカン・アオキ・ゼンリョウ・オモト・モッコク・ツツジ・**アカマツ**★スギ・ヒノキ・マツ・モミ・カヤ・ツゲ・ウメ・ロウバイ・キンロバイ・**ウメド**★ツルウメドキ・サルズベリ・カリン・ドウダンツツジ・アオギリ・モチノキ・ピラカンサス・ホーリー・イイギリ・**ゴンズイ**★**マユミ**★ナナカマド・**ガマズミ**★サンザシ・ユズ・**サウフタギ**★メギ・スノキ・ナツツバキ・ヤマモミジ・**ネジキ**★**ミズキ**★**エンジュ**★シラカシ・**ムクノキ**★**アカシデ**★

G-12 1941.5 庭園23(5) 火災と庭
モッコク・サカキ・シイスギ・ヒノキ・イヌマキ(ラカンマツ・ラカンマキ)・モチノキ・ナギ・サンゴジュ・カシ

G-13 1942.8 庭園24(8) 私邸の前庭と垣
サザンカ・モッコク・サザンカ・ジンチョウゲ・ヒノキ・サワラ・ハトヤバラ・ドウダンツツジ・カエデ・ヒイラギ・ピラカンサス・**イヌツゲ**★カナメモチ・ムベ・マサキ・アスナロ

■街路における推薦樹種

S-1 1919 庭園1(2) 道路樹木の研究
カエデ・ヤナギ・アオギリ・ユリノキ・スズカケノキ・ハリエンジュ・**ミズキ**★トチノキ・ハクウンボク・**アカマツシワ**・エンジュ・トウカエデ・イチョウ

S-2 1921.4 造園植栽法―新しき庭木
アオギリ・サクラ・ヤナギ・ユリノキ・ハリエンジュ(ニセアカシア)・トウカエデ・エンジュ・トチノキ・トチノキ・**ミズキ**★**アカマツシワ**

S-3 1928 造園叢書―公園の設計
アオギリ・スズカケノキ・ヒマラキスギ・ユリノキ・シカモアカエデ・ハリエンジュ・エンジュ・トチノキ・イヌエンジュ・**ケヤキ**★**ミズキ**★**アカマツシワ**・カツラ・トキワカエデ・トウカエデ・ポダイジュ・ハクウンボク・シンジュ

S-4 1940 土木工学9(6) 都市美と街路樹
アオギリ・シダレヤナギ・ソメイヨシノ・スズカケノキ・ハリエンジュ・ユリノキ・シカモアカエデ・トウカエデ・トチノキ・イヌエンジュ・**ケヤキ**★ポダイジュ

S-5 1943 緑地生活―都市の街路樹
アオギリ・シダレヤナギ・**ヤマザクラ**★ソメイヨシノ・アオギリ・シダレヤナギ・サクラ・ヤマザクラ・ソメイヨシノ・スズカケノキ・ハリエンジュ・ユリノキ・センダン・トウカエデ・エンジュ・イヌエンジュ・**ケヤキ**★トチノキ・ヤマナラシ

S-6 1952 街路樹―街路樹に適する樹種
アオギリ・シダレヤナギ・サクラ・キリ・スズカケノキ・ユリノキ・ハリエンジュ・ホブラ・トネリコバカエデ・センダン・**ケヤキ**★エンジュ・トチノキ・トウカエデ・イヌエンジュ・トチノキ・**ミズキ**★カツラ・シンジュ・ポダイジュ・**アカマツシワ**・ナンキンハゼ・フウ

S-7 1962 公園緑地23(4) 都市の植栽について
シダレヤナギ・スズカケノキ(プラタナス)・カロリナボブラ・ユリノキ・エンジュ

■公園における推薦樹種

P-1 1921.4 造園植栽法―新しき庭木
ツバキ・モッコク・ザクロ・ツツジ・サカキ・アオキ・キチジョウソウ・ヤブラン・オニシダ・ヤブソテツ・シャガ・カヤ・イヌマキ・イブキ・ツゲ・イブキ・サワラ・シロウメ・ハクレン・**ネムノキ**★**コブシ**★ウメ・ロウバイ・サルズベリ・シモツケ・コデマリ・アジサイ・ノウサクラ・ソメイヨシノ・ゼンカツラ・ハトヤバラ・モチノキ・リュウノヒゲ・**ムクノキ**★タイサンボク・リギダマツ・マテバシイ・アカガシ・ウバメガシ・ヤマツツバキ・ヤツデ・ピナンカヅラ・オカメヅタ・コウヤマキ・キャラボク・タマヒバ・クチャクヒバ・ヒムロ・**ケヤキ**★ムクロジ・カツラ・**ホオノキ**★トチノキ・エンジュ・ハクウンボク・シダザクラ(ザイフリボク)・イチョウ

P-2 1928 造園叢書―公園の設計
シイ・ユズリハツツジ・アオキ・クチナシ・ジンチョウゲ・モクセイ・**アカマツ**★クロマツ・カヤ・イヌマキ・ヒノキ・サワラ・ツゲ・ハイバクシン・ヒノキ・ゴヨウマツ・カエデ・アオギリ・サクラ・ウメ・モクレン・サルズベリ・ユキヤナギ・シモツケ・アジサイ・ビョウヤナギ・**ウツギ**★タイサンボク・リギダマツ・ストロブマツ・ヒマラキスギ・スズカケノキ・イタリヤ白楊・アカガシ・シラカシ・ウバメガシ・ヤツデ・**イヌツゲ**★**アセビ**★マサキ・サンゴジュ・キャラボク・トチノキ・ハクウンボク・**ホオノキ**★

P-3 1928.02 庭園10(2) 公園の花
サルズベリ・サクラ・モクレン・ウメ・ナシ・ユキヤナギ・美女櫻・ハナミズキ・リンゴ

P-4 1934.1 都市問題19(34) 都市緑地事業
シイ・モッコク・ツバキ・アオキ・モッコク・サツキ・クロマツ・カヤ・イヌマキ・サクラ・モチノキ・リュウノヒゲ・**ムクノキ**★トウネズミモチ・タイサンボク・ユッカ・ピラカンサス・リギダマツ・ヒマラキスギ・スズカケノキ・タブノキ・クスノキ・サンゴジュ・マテバシイ・アカガシ・シラカシ・ウバメガシ・トベラ・ヤツデ・トベラ・シャリンバイ・キャラボク・**ケヤキ**★メギ・イチョウ

P-5 1943 緑地生活―郷土風景を作る樹
ムクノキ★

P-6 1962 公園緑地23(4) 都市の植栽について
シイ・マツ・カヤ・**ムクノキ**★タイサンボク・ヒマラキスギ・スズカケノキ・ユリノキ・カロリナボブラ・カシ・クスノキ・タブノキ・**ケヤキ**★イチョウ・**エノキ**★

太字★…武蔵野の雑木林の樹種(雑木林の意図見られず)
太字★…武蔵野の雑木林の樹種(雑木林の意図あり)
下線…東京の郷土風景樹
四角枠…文学の中の雑木林の樹種